

科目名：環境（指導法） [必修1単位]		担当教員：小山田佑奈 担当形態：単独	使用テキスト： 出版社名・テキスト名 萌文書林： 保育内容「環境」
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		施行規則に定める科目区分又は事項等 保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）
授業到達目標及びテーマ： 現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境のかかわりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。			
授業の概要： 現代の幼児を取り巻く環境や幼児と環境とのかかわりについての専門的事項を踏まえ、幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容について理解を深め、幼児の発達に即して、深い学びが実現する過程を踏まえて領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導を身に付ける。授業の方法としては、演習や指導案作成や模擬保育、事例検討等では、ICT活用を試みる。			
回	項目	内 容	
1	オリエンテーション及び幼児教育の基本と保育内容「環境」の目標	冒頭で授業の概要について説明を行う。幼児教育の基本と保育内容「環境」の基本的構造と領域「環境」の目標について学習する。	
2	保育と「環境」	教育・保育における「環境」とは何かまた、子どもの育ちと「環境」とのかかわりについて理解する。	
3	領域「環境」とは	「生きる力」の基礎としての「環境」についてまた、領域「環境」のねらいと内容の実際を幼児の遊びや活動の事例をICTを活用しながら理解を深める。	
4	子どもの育ちと領域「環境」	環境を構成するうえで、幼児期にふさわしい環境と環境構成の実際を理解しながら、子どもの姿とそれに対する保育者のかかわりについて学習する。	
5	子どもを取り巻く人的環境	子どもを取り巻く人々の存在やかかわりや、保育実践に求められる環境的要因を考えていく。（事例にそってロールプレイを行う）	
6	子どもを取り巻く物的環境（1）	周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持って関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、保育を展開するにあたっての基本的事項について事例研究し、グループ討議をしながら各自レポートにまとめる。	
7	子どもを取り巻く物的環境（2）	標識、文字、数量、図形などに関わる保育の実態を探り、模擬保育（実際に子どもが遊べるものづくりをする）とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付ける。	
8	子どもを取り巻く社会的環境	子どもを取り巻く園の働き・地域社会の働き・関係機関の働き等事例を通してロールプレイを行い、社会的環境の理解を深める。	
9	子どもを取り巻く自然環境（1）	子どもならではの季節との関わりや季節の変化を体感しながら、自然に親しみ植物に触れる保育を実際に体験する。指導計画の立案[野菜栽培（ハツカダイコン等）]	
10	子どもを取り巻く自然環境（2）	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際（栽培の実際） —模擬保育[野菜（ハツカダイコン等）栽培の実際]—	
11	子どもを取り巻く自然環境（3）	自然に親しみ、植物に触れる保育の実際 —実践の省察、改善、[野菜栽培（ハツカダイコン等）の振り返り]—	

12	子どもの生きる力を育む環境	自立する心を育む環境、好奇心・探究心を育む環境、思考する心・判断する心を育む環境、表現する心を育む環境、道徳心を育む環境について学びワークショップやディベートでより理解を深める。
13	子どもを守り育てる環境	生命の保持という視点から保育の環境について考えたり、情緒の安定をもたらすあるいは保証する環境とはどのようなものかについて理解する。
14	気になるこどもと環境	気になるこども、障害のある子ども、子どもの多文化について DVD を通して理解し、環境への働きかけや捉え方を学習する。
15	環境を通じた教育・保育の現在の課題	領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むと共に評価の考え方を理解する。
	期末試験	
<p>参考書・参考資料等：</p> <p>幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領・保育の基本用語・保育内容 環境・月刊誌 ・保育者の常識67・はじめての栽培・まいにち造形・幼稚園教諭養成課程をどう構成するか等</p>		
<p>学生に対する評価方法：</p> <p>授業態度・関心・意欲・創意工夫・レポート提出…（30%）、期末試験…（70%）で評価する。</p>		
<p>【小山田佑奈】</p> <p>認定こども園東奥幼稚園 元教諭</p>		